

KT00023695

ゆるる

これまで

更新されていくトイレに対して、未来を見据えて長く残る居場所を提案する。既存トイレの基礎を読みかえコモンな水場とし、それを囲うように配置される新設トイレも尚ほもみらいては再解釈され他の用途として利用される。

ページをめくるように敷地に新たな展開を与える。

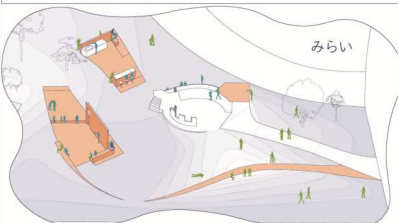
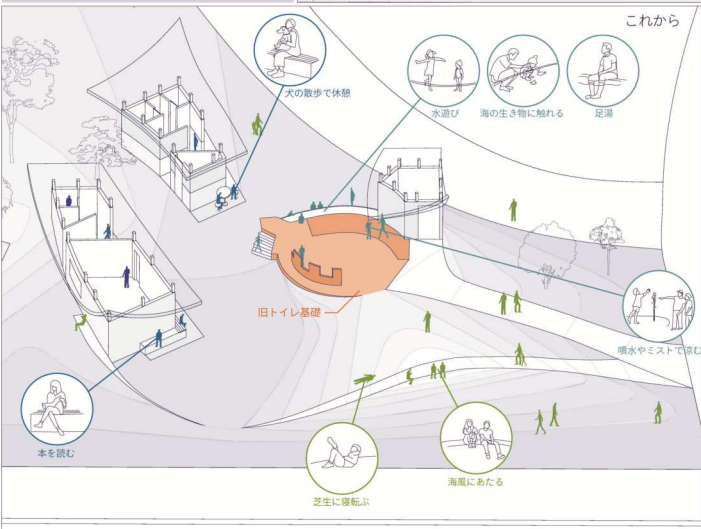
## 1 三谷の要素をつなぐ結節点

敷地は海・山などの自然環境の要素や漁港・まち・海岸などの暮らしの構成要素、祭りや温泉の文化的要素の結節点として存在している。

堤防の端部が敷地の東に控えており、日常的に風がよく通る。

## 2 記憶やコミュニティが残っている

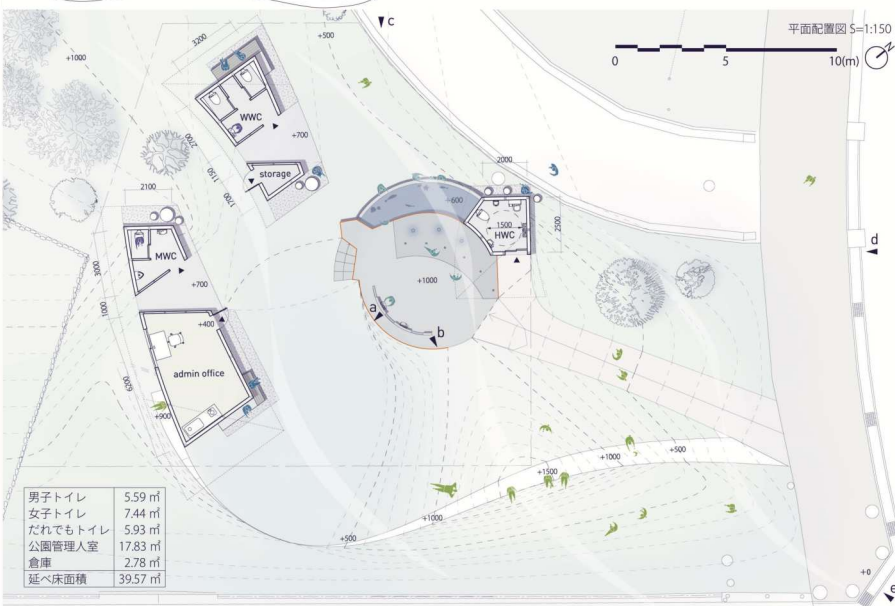
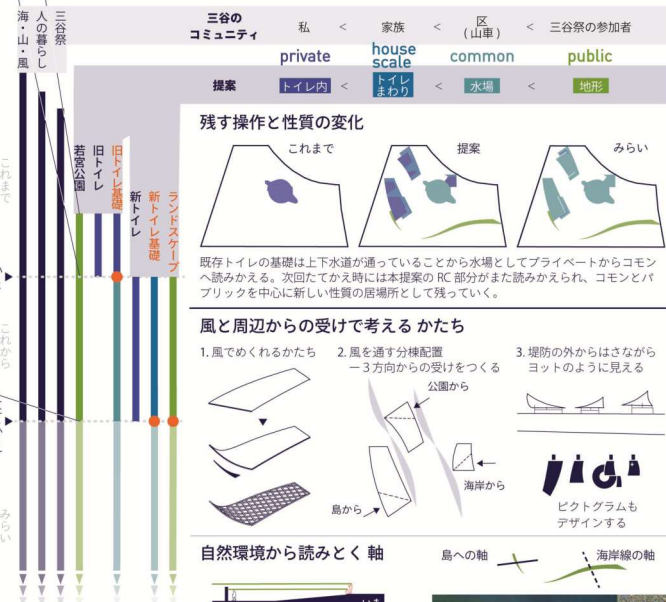
三谷に続くコミュニティのスケールが、空間の性質のスケールと結びつくように設計する。



## 3 三谷ならではのコモンやパブリックが現れる

海や温泉・三谷祭にあるように、水を囲うように、このまちのコモンやパブリックが形成されている。本提案でも、既存トイレを更新し手洗い場として使用したり噴水やプールを設けコモンとしての居場所を展開する。

深海生物で有名な漁業や温泉があることから、まちの協力を図ってプールをタッチプールとして使用したり足湯として使うこともできる。



みらいへの余地を残す RC 壁 立面図 S=1:100

